



気持ちの良いあいさつをしよう

校長 浅見 正史

朝晩の気温がめっきり低くなり、木々の落ち葉が校内を彩る季節となりました。朝の落ち葉清掃をしている時、正門の前を通る方々に「おはようございます」とあいさつをすると、自然とあいさつを返していただける方々が多く、気持ちの良い一日の始まりを感じています。

寒くなると、あいさつをする声も小さくなりがちなので、元気よく、相手の目を見て、心に伝わるあいさつを心掛けましょう。

さて、食事をした後のあいさつは「ごちそうさまでした」と言いますが、「ごちそうさま」を漢字で「御馳走様」と書き、「馳走」とは、本来「走り回る」という意味の言葉です。昔は、大切な客人を迎える時に、馬を走らせて方々へ出向き、物品を集めるのに、苦勞のいる時代でした。その様子から、「馳走」と言う言葉に「もてなし」の意味が含まれるようになり、さらに丁寧語の「ご馳走」という、贅沢で豪華な料理を意味する言葉となったようです。それから、食事をした後のあいさつとして、「ごちそうさまでした」と言うようになったのは、江戸時代後期に、ご馳走をいただいた事への感謝の意を表す言葉として、使われ始めたそうです。(食育大辞典より)

家庭でも学校でも食事の後は、「ごちそうさまでした」と言っていると思います。言葉の意味を理解し、意識をすることで、食べ物や作り手の方などへの感謝の気持ちが、自然とわいてきます。「ごちそうさまでした」の一言は、作り手の方などを元気づける魔法の言葉であり、感謝の気持ちを伝える大切な言葉だと思います。

さいたま市では、11月に『心を潤す4つの言葉「おはようございます」「ありがとうございます」「ごめんなさい」「はい』』推進週間を設定し、各学校において児童生徒・教職員・保護者・地域の方々が、積極的に良いあいさつ・返事、心を込めた素直な言葉を交わすことによって、一人ひとりの心が通う学校や地域づくりを目指しています。

本校では、生徒会や各専門委員会の活動を通して推進していくとともに、呼名時の返事や登下校時等のあいさつなどについて、教職員も意識して指導を行ってまいります。

